

## 高品質なリンドウ出荷へ ～現地巡回講習会～

白神りんどう部会は6月21日、管内4カ所で現地講習会を開催し、7月から本格的に収穫が始まる初夏用の早生種や、盆用の品種などの生育状況を確認しました。

今年度は目立った病害虫も少なく生育は順調に進んでおり、部会員は茎の伸び具合や圃場の状態等を確認し、今後の高温対策や病害虫防除に向けた栽培管理について学びました。7月2日には出荷目揃え会も開催しており、部会員同志で情報を共有して高品質な出荷に努める事を確認しております。



リンドウの生育を確認する部会員



圃場で意見交換をする生産者ら



ハウス内で意見交換する生産者

## トマトハウス巡回 ～病害虫防除など確認～

トマト出荷目揃え会とハウス巡回講習会が6月20日開かれ、トマト生産者は管内2カ所のハウスを巡回し、本格的な収穫前に管理方法の足並みをそろえました。

目揃え会では県農業振興普及課より「高温対策としてハウス内の換気のポイントや、気温の上昇に伴い発生する病害虫の予防防除について徹底するよう」呼びかけておりました。

ハウス巡回では生産者が生育状況を確認しながら、意見を交わしておりました。



あいざつをする大塚部会長

## 「白神ねぎ」21億円目標 ～現地巡回で指導～

白神ねぎ部会の夏ネギ現地巡回が6月13日開かれ、参加者は夏ネギの生育状況を把握し、高品質なネギの生産へ意欲を高めました。

白神ねぎ生産者や、種苗メーカー、能代市農業技術センターの担当者など約35名が参加。現地巡回では園芸メガ団地の圃場を見学。能代市農業技術センターでは湿害対策や健全な根域確保など、現場レベルで可能な対策について指導しました。

今年度は販売額21億978万円を目指して「白神ねぎ」の収穫がスタートしています。

## 地域の環境保全へ ～農業用廃プラ回収～

今年度1回目の農業用廃プラスチックの回収作業が6月28日に、管内3地区の営農センターで一斉に行われました。

肥料袋や古くなった育苗箱、農業用ビニール資材などが各営農センターに搬入され、廃プラを持ち込んだ農家組合員は延べ76名、8.6トンの廃プラが回収されました。

廃プラ回収作業は年3回実施しており、リサイクルすることで環境保全と資源の有効利用に役立てることにしております。次回は11月を予定しております。



手際よく荷下ろし作業をする職員

## 自動車共済で高評価 ～満足度向上で感謝状～

当JAは6月4日、令和5年度のJA自動車共済損害調査サービスを通じた満足度調査で「満足度98・2%」の高い評価を受け、JA共済連秋田から感謝状が贈られました。

感謝状はJA共済にご加入の方が交通事故に遭った際、交通事故受付対応で契約者から高い評価を得たものです。

感謝状を受取った長内共済課長は「これからも当JAではご契約者の皆様に安全・安心を提供出来るよう、満足度向上に努めたい」と更なるサービス提供を誓いました。



全共連秋田県本部長から感謝状を受取る長内共済課長



DVDを視聴する役員

## ハラスメント役員研修 ～働きやすい環境づくりを～

JAでは6月25日の理事会前に、JA役員(理事・監事)に対するハラスメント研修を行いました。

ハラスメントは、職場を健全に運営する上で、あってはならないことであることから、パワハラの定義を正しく理解し、自信を持って職員を指導できるように行われました。

研修では「パワハラを防ぐアンガーマネジメント」と題したDVD視聴を行いました。JAでは今後とも生産性の高い職場を実現するために、働きやすい環境づくりに取り組んでまいります。



協同購入コンバインを視察する工藤専務と工藤組合長

## 最新農機が勢揃い ～JA農機大展示会～

県内JAとJA全農あきた主催のJA農業機械大展示会が6月19日・20日の2日間、秋田県立スケート場で開催され、当JA管内からも約200名が訪れ、賑わいを見せました。

会場入り口隣のブースには全国7千名以上の稲作生産者の声を反映した「協同購入コンバイン」や「共同購入トラクター」などが展示され、来場者の注目を集めていました。

当JAでは今後、共同購入コンバインなどの、低コスト農業機械の利用促進を図ることとしております。